

# 魔界大冒険ともしもボックス

工学部 3 回生 龍田星奈

## 1. はじめに

昨年配布した会誌の中で稚拙ながら『魔界大冒険』の作品紹介を担当させていただきました。その執筆段階で相方の山本くんと2人で話している時にこのお話の設定・世界観についていろいろと意見を出し合いました。昨年の作品紹介ではページ数の関係もあり載せられなかったもの、詳細を省いてしまったものが多いです。今回はその中でも一番気になった点、この作品の最大の特徴であろう「もしもボックスとパラレルワールド」の考察（ツッコミ）を好き勝手述べていこうかと思いません。また、最後にはこの作品におけるそのほかの疑問点も載せておきたいと思いません。拙い文章であるかとは思いますが、しばしお付き合いいただければ幸いです。

## 2. もしもボックスとパラレルワールド

### (1)パラレルワールドとは

魔界大冒険ではもしもボックスに関連して「パラレルワールド」という概念が出てきます。なのでまずパラレルワールドとはいかなるものかというところから始めたいと思います。

パラレルワールドとは、“観察者がいる世界から、過去のある時点で分岐して併存するとされる世界”“我々の世界と併存すると考えられる異次元の世界”（引用元：デジタル大辞泉）などと定義されています。他にも科学的になにやら難しい定義や考え方があるようですが、ここでは割愛します。あくまでSFやファンタジー的な仮想のものとして進めていきます。

前者はたとえば「選択肢 A と B があったとき、A を選んだときと B を選んだときで違う世界になるだろう」ということですね。選択肢の可能性の分だけ世界が存在することになります。木の枝がイメージに使われたりします。また、タイムパラドックスを考える上でも使われたりします。たとえば、自分の生まれる前にタイムスリップして自分の父親を殺したとします。父親が死んでいるのだから当然自分は生まれません。そうすると父親を殺しに行く人がいないので父親は殺されません、生きています。だとすると自分が生まれるので父親を殺しに…。という堂々巡りな感じになってしまいます。ここで父親を殺した時点で「父親の死んだ世界」というパラレルワールドが分岐してできると考えると、「父親を殺した」のと「自分が生ま

れている」という相反するはずの出来事が共存することができます。この理論でいくと過去を変えても新たなパラレルワールドができるだけでもともと自分のいる世界には何の影響もないということになります。

後者の方はより広い解釈です。「異次元の世界」としか言及されていないので可能性の分岐で発生する世界だけでなく、たとえば漫画やゲーム、小説などの創作物の世界のような「この世界と全く違う世界」も含むものと思われます。

さてドラえもんの世界観の中での話なのですが、おそらく前者のようなパラレルワールドは存在しないのではないかと思います。なにせ物語の根本からしてドラえもんは「のび太がダメダメなせいで苦労しているセワシたち子孫の生活をどうにかするためにのび太を世話しにやってくる」はずなんです。過去を変えても自分たちの生活が変わらないならわざわざやってくるはずありません。(もしかしたら新しくできたパラレルワールドの自分たちのためにやっているというのもありえなくもないかもしれませんが…)

ここでは「過去を変えたらどうなるか」ということについては言及しないでおこうと思います。過去を変えるということに関連する事柄で私が一番に思いつくのは、のび太がジャイ子じゃなくてしずちゃんと結婚したらセワシは生まれないんじゃないのとか、『鉄人兵団』のラストで過去を変えたことによって起こった兵団の消滅の様子はどう説明すればいいのかということですが、私の粗末な頭ではこの2つすら矛盾なく説明できるモデルを思いつかない始末なので。しかし、物語の世界観なんてさまざままで、既存の設定に無理に当てはめる必要もないと思うので、ドラえもん世界での時間の流れについては不思議だなあくらいで置いておこうとは思っています。ところで原作でもしもボックスによって創られる(or 行くことのできる)世界というのは物理法則を無視したもの(たとえば音のない世界、魔法世界など)があります。いくらなんでもこの現実世界での物理法則が全く通用しない世界が可能性の分岐の末にできたとは考えられません。このことから、もしもボックスとパラレルワールドが関係するというのは、それはやはり「異次元にあるファンタジー的な世界」なのではないかと思います。

## (2)もしもボックスの機能とは

次にもしもボックスの機能についておさらいしておきたいと思います。

“外観は一昔前の公衆電話ボックス(1954年から1969年まで使用されていた通称「丹頂形」)に酷似。中に入って電話をかけ、「もしも〇〇〇だったら」「\*\*な世界を」と申し出て受話器を戻し待つ。電話のベルが鳴った事を確かめてボックスを

出ると、外の世界は実際にその通りの世界になっている。シリーズ中にこれで実現させた世界は、音のない世界、皆があやとりに夢中な世界、鏡のない世界、物価が非常に安い世界、お金のいらぬ世界、魔法世界などがある。元に戻す場合は、もう一度もしもボックスに入って「元の世界に戻して」と言えば、元に戻る。ドラえもんの説明によれば、「一種の実験装置」とのことで、「もしもこんなことがあったら、どんな世界になるか」を体験するためのものであるとのこと。また、話によっては「今いる世界を作り変える道具」や「新しい世界を創り出す道具」などと描写されることもある。”（引用元：Wikipedia）

また、『魔界大冒険』の原作（大長編第5作）、旧作（1984年公開の劇場版）ではドラミが「のび太が創り出した魔法世界はパラレルワールドになって続いていく」というような発言をしています。

新作（2007年公開のリメイク劇場版）でも同様の発言をしていますが、こちらは公開前に放映されたアニメと映画冒頭・終盤の描写から、もともと存在したパラレルワールドと現実世界を入れ替えた、というような設定であると思われます。現在ではこの『新魔界大冒険』や『21世紀版ドラえもんひみつ大百科』などの記述から、「無数に存在するパラレルワールドの中から条件に近い世界を探し出してその世界へ行く（もしくはその世界と入れ替える）」という解釈に落ち着いているように思います。が、後付け感も否めません。そこで、私なりにその機能を考えてみたところ次の4つの可能性があるのではないかと思います。

- ①世界を作り変え、使用后元に戻る
- ②元の世界とは別に新たな世界を作るが、使用后その世界は消える
- ③元の世界とは別に新たな世界を作り、その世界がその後も続いていく
- ④もともと存在したパラレルワールドの自分たちと入れ替わる

きっとよく考えれば他にも可能性はあるのですが、一応この4つを念頭に置いて議論していきたいと思います。

①と②では何が違うかという点、①ではドラのび以外の人たちも巻き込まれていますが、②では別に世界を創っている所以他の人からしてみればもしもボックスの使用中はドラのびが行方不明になっていることになる、ということです。

ここまでつらつらとパラレルワールドやもしもボックスの機能について語ってきましたが、結局私はもしもボックスの機能は①で、④はもちろんのこと、③も『魔界大冒険』のために創られた設定なのだろうなあと考えています。（②はどうかという点、使用が終わった後でしずちゃん達がドラのびの不在を不思議がる描写というのは存在しないので、これが正しいという可能性は限りなく低いと思います。本当は

③にもこの理由が当てはまるのですが、そうしてしまうと話が進まなくなるので無視しておきます。) ③が『魔界大冒険』原作の表現だというのは百も承知ですが、ドラえもん本編においてももしもボックス関連のお話で「パラレルワールド」なんて言葉が出たのは『魔界大冒険』が最初で最後です。(そもそももしもボックスは『魔界大冒険』以降短編にも大長編にも登場しません。) ③の設定だとももしもボックスを使うたびにパラレルワールドが誕生することになってしまいます。パラレルワールドが誕生するということが世界とか宇宙とか次元とかにどういう影響を与えるかというのは未知数ですが、そんなポコポコ好き勝手無責任に新しい世界を創るとというのが倫理的に認められているとは思えません(というか思いたくないです。) ④設定だと新たな世界は誕生しませんが、無数にあるとはいってもそう都合よく条件にあったパラレルワールドがあるのかという疑問があります。ではなぜパラレルワールドなんてものが関連するという設定が付け足されたかという、この設定がないと本編においてドラミがもしもボックスを携えてやってきた時点で(きっと原作や映画を観た人たちが驚いたように) 本当にそこで物語が終わってしまうからです。あの場面でのび太が「魔法世界を救う」という使命感を抱くためには、もしもボックスで作られた魔法世界はもしもボックスの使用が終われば消えてしまうゲームのような架空のものであってはなりません。現実世界とは独立して続いていく、「未来」がある世界でなければならないんですね。そのためのパラレルワールド設定でしょう。つまり私の考えとしては、もしもボックスの本来の機能は①ではあるが、『魔界大冒険(原作、旧作)』に限り③、『新魔界大冒険』とそれ以降においては④であるということになります。また、③④におけるパラレルワールドは可能性分岐の世界ではなく、完全なるファンタジー世界だと考えます。

### (3)タイムマシン

パラレルワールドの存在を認めてしまうと不思議に思えてくる点がいくつかあります。その最たるものが『タイムマシン』です。出所から使用方法まで不思議でいっぱいなのです。むしろこれがこの無駄に長い考察の中で一番やりたかったツッコミだと言っても過言ではありません。

魔法世界においてドラえもんとのび太はとりよせバックでのび太の机をとりよせ、タイムマシンでももしもボックスを使う前の時間に戻ります。(四次元空間の出入り口はのび太の机の引き出しにくっついているのではなく、たまたま引き出しの位置につながっているという話だったような気がします、そこは今回置いておきます。) で、このタイムマシン(のび太の机)は一体どこから取り寄せたのでしょうか? この

魔法世界は完全ファンタジー世界のはずなので、もちろんタイムマシンなんてものは存在しないでしょう。魔法世界にもタイムマシンのようなものがもしかしたらあるかもしれませんが、少なくともドラえもんが操縦できるようなものはないはずです。とすればこのタイムマシンは『科学世界』から取り寄せられたものとは考えられないのです。とりよせバックは異なるパラレルワールドに存在するものも取り寄せることができる！というなんともすごい道具になります。

次に、その使用についてですが、ここで注目してもらいたいタイムマシンの使用は2か所あります。1度はドラのびが過去に戻ったとき、そしてもう1度はドラミが22世紀からやってきたときです。この時間移動での出発点・終着点を考えると、ドラのびは「魔法世界から科学世界へ」、ドラミは「科学世界（22世紀）から魔法世界へ」移動しているのです。タイムマシンにはパラレルワールド間を移動する機能があったんですね！もしもボックス（機能④）の立場がありませんね！

（私がもしもボックスの機能として①を推しているのもこのことが関係したりしています。①であれば世界はひとつしかないのでパラレルワールド間を移動したりする必要がないからです。）

#### (4)その他

##### ・魔法世界におけるドラえもん&ドラミの存在

魔法世界においてドラえもんやドラミは普通に受け入れられています。魔法世界では科学の代わりに魔法が発達しているという設定みたいなので、ロボットではないのでしょうか。じゃあゴーレムか何かなのかな？土ででもできてるの？というところまで昨年のお話し合いで出ました。ここからが追加なのですが、機能①～③の場合は魔法世界は科学世界を元にして作られた世界と考えられるのでドラえもんがロボットであったとしても受け入れられていても不思議ではないのです。もともと受け入れられているということをして元としているので魔法世界でのび太が受け入れられているのと同じくらい自然なことだと思います。ここで問題なのは機能④の場合、つまり『新魔界大冒険』の場合です。この場合はもともと魔法世界が別に存在していて、そこに移動しているわけなのだからこの世界でドラえもんが受け入れられているとすれば、魔法世界に最初から『ドラえもんの見た目をした何か』がいたことになります。やっぱりゴーレムとかなのかな？

##### ・魔法世界の景観について

あまりにも科学世界そのままです。これもやはり機能①～③であれば科学世界をもとに魔法が発達したような世界を作ったんだろうな、で済むのですが、④だとこ

んなに科学世界そのままの景観はおかしいだろうということになってしまいます。箒があるからそんなにきれいに道を整備する必要はない、掃除なんて魔法でちょちょいのちょいでできるから掃除機(?)なんて必要ない、ビルや学校はどうやって作ったのか、テレビは一体どういう仕組みで動いているのか、魔法で動いているのならあんな大きな箱（ブラウン管）はいるのか…などなどツッコミどころ満載です。

### 3. その他の疑問点など

#### (1) 満月『牧師』

『新魔界大冒険』では満月博士は満月牧師と呼ばれています。当たり前ですが牧師とはキリスト教の聖職者のことです。科学世界の『博士』と対比して魔法世界では『牧師』にしたのでしょうか、ここで一つおかしいことがあります。中世において魔女狩りを行ったのはキリスト教です。つまり、キリスト教徒である『牧師』と『魔術』は相容れない関係であり、魔術を研究する人を牧師とするのはおかしいのではないかということです。魔法世界と元の世界では宗教や魔術に関するところで歴史的、概念的に相違がみられるというのは大いにあり得ることなので問題ないのかもしれませんが。とはいってもそれは物語内での話です。そういう呼称をつけたのは現実世界の映画スタッフさんなわけで、ちょっと言葉の選択ミスだよねと言う話を昨年しました。

#### (2) 魔界星と方角

リメイク版ではなくなってしまった帰らずの原。ここでは目標物は動いてしまうし、頼りの方位磁針は使い物にならないわでデマオンの城があるという北北西に進むことができません。原作・旧作では『道路光線』が登場し、その光を頼りに帰らずの原を抜けることができました。ここで疑問なのはどうやって北北西を知ることができたかです。方角を知ることができなくなったから困ってのではないのか。グルグルしているうちに方位磁針の使える帰らずの原入り口付近まで戻ってきていた？道路光線には正確な方角を知ることができる機能(地磁気に寄らない)がある？そもそもナルニアデスが記した「北北西」とは「方位磁針の指す北北西」と等しいのでしょうか。ナルニアデスが方位磁針が登場する前の人で「太陽が昇る方向を東とする」という定義によっていたとすれば、地磁気を利用した方位磁針とは全く違った方向だという可能性もあります。

また、方角というのは北極と南極以外の一定の場所を示すことができないはずで、起点がずれば目標地点にたどり着けないということも十分あり得るのではないかと思ったりもします。

### (3)のび太が魔法を使える条件

もしもボックス使用前にもどったのび太はメジューサから逃げる際に魔法を使っています。その時点でのび太がいる世界は科学世界なわけで魔法を使えるのはおかしいのでは？という議論もしました。メジューサも魔法を使えているので「魔法世界の存在」であれば科学世界でも魔法が使えるということでしょうか。

## 4. さいごに

「なんだこれ？」「なんか矛盾してないか？」「理論的（科学的）におかしくないか？」などと思ったことには突っ込まずにはいられないタイプです。また、それについて無駄な議論を頭の中でくりひろげるのが好きなタイプです。なので今回はそんな私のツッコミをつらつらと並べてきました。本当にくだらないことばかりだったとは思いますが、もし楽しんでいただけたならそれ以上うれしいことはありません。ここまでお付き合いいただきありがとうございます。ありがとうございました。